The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	W.Blake の詩に於ける 'night' : Songs of Innocence と Songs of Experience を中心に
Author(s)	柏木, 俊和
Citation	Osaka Literary Review. 1965, 3, p. 63-73
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/25803
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

W・Blake の詩に於ける 'night'

—— *Songs of Innocence* と *Songs of Experience* を中心に ——

柏　木　俊　和

夜の世界のイメージは Blake の詩に非常に多く現われるイメージであり，特に *Songs of Innocence* と *Songs of Experience* の中の数編の詩では，夜の世界は象徴的な意味を持っているように思われる．この小論ではそのような数編の詩を中心に，*Songs of Innocence* から *Songs of Experience* にかけて夜の世界がどのように展開され，又，どのような象徴的な意味を持っているかを考察してみようと思う．

I

Songs of Innocence の中に 'The Little Boy lost' とそれに続く 'The Little Boy found' と云う詩がある．*Songs of Innocence* の中のその他の多くの詩と同様，子供を主人公とした詩である．

"Father, father, where are you going?
O do not walk so fast.
Speak father, speak to your little boy,
Or else I shall be lost."

The night was dark, no father was there ;
The child was wet with dew ;
The mire was deep, & the child did weep,
And away the vapour flew.

子供は父親の後を追い，霧に惑わされて父親の姿を見失い，夜の闇の中に迷い込む．これは父親の死を意味するのであろう．子供は父親を失うことにより全てを失ったと思い，絶望に陥る．しかし，次の 'The Little Boy found' では子供の前に神が白衣を着て父親のように姿を現わし，子供を無事に母親のもとにつれて行く．

The little boy lost in the lonely fen,
Led by the wand' ring light,
Began to cry, but God ever nigh,
Appear'd like his father in white.

He kissed the child & by the hand led
And to his mother brought,
Who in sorrow pale, thro' the lonely dale,
Her little boy weeping sought.

ところで，子供が迷い込んだ夜の世界は一体如何なる世界を象徴しているのであろうか．Blake は 'Auguries of Innocence' と云う格言風の詩を次のように結んでいる．

God Appears, & God is Light
To those poor Souls who dwell in Night,
But does a Human Form Display
To those who Dwell in Realms of Day.

夜の世界に住む哀れな人々と昼の世界に住む人々とが対比され，前者には神は単に漠然とした光であるに過ぎないが，後者には神ははっきりとした人間の姿として現われる．前者はヴィジョンを見る能力に乏しい人々であり，後者はヴィジョンを見ることの出来る Imagination に恵まれた人々であろう．Blake は *There is No Natural Religion* の中で，'He who sees the Infinite in all things, sees God. He who sees the Ratio only, sees himself only.'と言っている．夜の世界に住む哀れな

人々とは，万物の中に無限を見ることが出来ず，ただ'Ratio'しか見ることの出来ない人々であろう．又，Blake は同じ箇所で'Man by his reasoning power can only compare & judge of what he has already perciev'd．'と言っている．神のヴィジョンは'reasoning power'だけでは見ることは出来ないのである．The Little Boy lost'に於いて，子供が迷い込んだ夜の世界は明らかに理性や懐疑の支配する迷妄の世界を象徴している．迷妄の闇の世界に迷った子供には神の姿は見えず，ただ狐火('wand'ring light')が見えるにすぎない．子供は目に見える存在としての父親を失うことによって，神のヴィジョンを見失ってしまう．しかし，'The Little Boy found'で子供は絶望の底から人間の姿，否，自分の父親の姿をした神のヴィジョンを見ることによって迷妄の闇の世界から救われる．子供は父親を失うことにより理性や疑惑に惑わされて神のヴィジョンを見失うが，子供は無心な心を持っているが故に神のヴィジョンを見ることが出来る．Blake は *Songs of Innocence* を彫版している間，「心を入れかえて幼な子のようにならなければ，天国に入ることは出来ないであろう①．」と云うイエスの言葉を瞬時も忘れなかったに違いない．Blake 自身'Auguries of Innocence'の中で次のように言っている．

He who mocks the Infant's Faith
Shall be mock'd in Age & Death.
He who shall teach the Child to Doubt
The rotting Grave shall ne'er get out.
He who respects the Infant's faith
Triumphs over Hell & Death.②

Blake が子供の無邪気な心を如何に尊重し，又，そう云う子供の心に懐疑を教える者に対して如何に激しい憤りを感じていたかを物語っている．無心な子供達の世界である *Songs of Innocence* の世界にも暗い夜の闇が訪れるが，その闇の世界には神が姿を現わすのである．'night'と題する詩に於ては，夜の世界は次のように美しい．

The sun descending in the west

The evening star does shine,
The birds are silent in their nest
And I must seek for mine,
The moon, like a flower
In heaven's high bower,
With silent delight
Sits and smiles on the night.

この夜の世界にはやがて天使達が姿を現わし，「目に見えず，おのおのの蕾と花に，又，おのおのの眠れる胸に，限りなき恵みと喜びとを注ぐ」のであり，狼や虎が姿を現わし，餌食を求めてほえても，天使らがその猛り立つ猛獣の魂を和らげる．*Songs of Innocence* に於ける夜の世界は神の愛と恵みから見放された暗黒の闇ではない．しかし，*Songs of Innocence* から *Songs of Experience* にかけて，Blake の詩の世界には次第に夜の闇が深まって行くかのようである．*Songs of Innocence* の中に 'The Voice of the Ancient Bard' と題する詩がある．この詩は後に *Songs of Experience* に移されたことからも既に *Songs of Experience* 的要素を持っており，時期的にも *Songs of Innocence* の中で最も *Songs of Experience* に近い頃の作であろう．従って，Songs of Innocence から *Songs of Experience* に至る頃の Blakc の関心がどのような方向に向けられていたかを知るのに好適な詩である．

Youth of delight, come hither
And see the opening morn,
Image of truth new born.
Doubt is fled & clouds of reason,
Dark disputes & artful teazing.
Folly is an endless maze,
Tangled roots perplex her ways,
How many have fallen there!
They stumble all night over bones of the dead,
And feel they know not what but care,

And wish to lead others when they should be led.

Songs of Innocence は 'Introduction' に歌われているように子供達の喜びのための歌であった筈であるが，この詩は最早子供達のための歌ではなく，若者達のための歌である．そして，この詩は「老詩人」が「喜びの若者」に向って，迷妄の闇の世界から目覚め，新しく生まれる真理に目を開くように呼びかける予言の歌である．

この詩では朝の光明の世界と夜の闇の世界が対比されている．前者が Imagination の真理に目覚めた若人達の世界であり，後者は「疑惑」や「理性」や「暗き論議」や「たくらみ多き責苦」によって，若者達の Imagination を抑圧しようとする社会の愚かな指導者達の支配する世界である．Imagination に目覚めない愚かな指導者達は，導かれる身でありながら，理性や分別を武器として若者達の愛と生命の要求を抑圧しようとする．

この詩は「老詩人」が若き世代に送る希望に充ちた予言の歌であると同時に，誤った社会の指導者への警告の詩でもある．

Blake はこの頃から，人間の自由な愛と生命の要求を抑圧しようとする道徳律や戒律に対して，次第に激しい攻撃を加えるようになる．

II

Songs of Experience の序の歌 'Introduction' の第3節で，「現在，過去，未来を見透す」ことの出来る Imagination の詩人は，夜の闇につつまれた大地に向って次のように呼びかける．

O Earth, O Earth, return !
Arise from out the dewy grass ;
Night is worn,
And the morn
Rises from the slumberous mass.

'The Voice of the Ancient Bard' の場合と同様，'Bard' は迷妄の闇

の世界はやがて終わり，Imagination に目覚めた世界が到来することを予言する．しかし，この詩に於ける 'Bard' は「喜びの若者」に向ってではなく，大地に向って呼び掛けている．大地とはこの詩の第 2 節の 'the lapsed Soul' のことであり，人間の魂を象徴している．Blake は ***Songs of Innocence*** と ***Songs of Experience*** によって「人間の魂の二つの相対立する状態」を示そうとしたのであり，***Songs of Innocence*** に於て子供によって象徴される無心な心の状態を示そうとしたのに対し，***Songs of Experience*** に於ては墮落せる心の状態，即ち知識の木の実を食べ理性と懐疑を知ったが故にヴィジョンを見ることの出来なくなった心の状態を示そうとしているのであろう．

今や大地は夜の闇につつまれ，未だ Imagination に目覚めない 'slumberous mass' である．Blake にとっては Imagination に目覚めない Reason の支配する状態は眠りに等しい．Blake は1802年11月22日附けの Thomas Butts への手紙の中で，' May God us keep／From single vision & Newton's sleep.'[3] と歌っている．Blake にとっては Bacon や Locke や Newton は，Imagination を軽視し Reason を重視する者の代名詞であった．'Newton's sleep' とは 'single vision' しか信ずことの出来ない状態である．大地は夜の闇につつまれ，そう云う眠りの状態にあるのである．しかし，'Bard' は大地に向って迷妄の闇の世界がやがては去ることを予言する．が，次の 'Earth's Answer' の第 3 節と 4 節とに於て，大地は次のように答える．

Selfish father of men,
Cruel, jealous, selfish fear :
Can delight,
Chain'd in night,
The virgins of youth and morning bear ?

Does spring hide its joy
When buds and blossoms grow ?
Does the sower
Sow by night ?

Or the plowman in darkness plow ?

'Selfish father of men' とは謂わゆる「予言書」の中に登場する 'Urizen (your reason) と呼ばれる道徳律や戒律の作製者のことであろう．今や大地（人間の魂）は厳しい道徳律や戒律によって支配されている．そう云う道徳律や戒律によって支配されている闇の世界に縛られている限り，どうして喜びに溢れる若者達が育ち得ようかと云うのが第3節の意味であろう．'The Voice of the Ancient Bard' では若者達は迷妄の闇の世界から脱しているが故に喜びに溢れていたが，ここでは若者達の愛と喜びは戒律や厳格な道徳律によって束縛され抑圧されざるを得ない．第4節の 'spring' は自然界の春と同時に人生の春としての青春をも暗示し，'buds' や 'blossoms' は大地から春になると自然に生育するもの，即ち青春の若者達から自然に生まれ出るべき愛と生命力を暗示する．'sow' や 'plow' と云う大地に種を蒔き，或は大地を耕すイメージは，当然，人間の心の中に Imagination の世界を深めて行くことを象徴している．

かくて，Imagination に目覚めた世界がやがて到来するであろうと云う 'Bard' の予言にも拘らず，大地は冷酷な道徳律や戒律の支配する闇の世界につつまれている．*Songs of Experience* に於ては，この闇の世界は終わることはない．絶唱 'The Sick Rose' に於ける夜の闇の世界も，明らかに同じような象徴的な意味を持っている．

O Rose, thou art sick
The invisible worm
That flies in the night
In the howling storm,

Has found out thy bed
Of crimson joy,
And his dark secret love
Does thy life destroy.

暗い夜の闇のイメージとバラのイメージとの鮮やかな色彩の対照が，こ

の詩を構成する大きな要素となっている．嵐の夜，目に見えぬ虫によってその生命を滅ぼされて行くバラとは，一体何であろうか．多分，作者自身によっても絶体に別の言葉で説明しつくされないものであろう．象徴とは正にそのようなものである．が，あえて推測を下すならば，バラは愛の象徴であり，この詩に於けるバラは肉欲的な愛の象徴であるように思われる．Blake が嫌悪したのは肉欲的な愛ではなく，それを罪として不当に抑圧しようとする虚偽と偽善に充ちた狭量な道徳律や戒律であった．Blake はノート・ブックの中に次のような詩句を書き付けている．

Abstinence sows sand over all
The ruddy limbs & flaming hair ;
But Desire Gratified
Plants fruits of life & beauty there.[4]

又，*The Marriage Of Heaven And Hell* の 'Proverbs of Hell' の中で 'As the catterpiller chooses the fairest leaves to lay her eggs on, so the priest lays his curse on the fairest joys.' と言っている．肉欲を罪とする教会の聖職者に対する激しい攻撃は，*Songs of Experience* の中の数篇の詩にも，又，その他の箇所にも数多く見出される．Blake にとっては，生命力の表現である肉欲は決して教会の課する戒律によって抑圧され，歪められるべきものではなかった．肉体の欲望に呪いの言葉を浴びせる聖職者自身，蔭では肉欲を貪る者である．Blake はノート・ブックの中に次のような詩を書きつけている．

I saw a chapel all of gold
That none did dare to enter in,
And many weeping stood without,
Weeping, mourning, worshipping.

I saw a serpent rise between
The white pillars of the door,
And he forc'd & forc'd & forc'd ——

Down the golden hinges tore,

And along the pavement sweet,
Set with pearls & rubies bright,
All his slimy length he drew,
Till upon the altar white

Vomiting his poison out
On the bread & on the wine :
So I turn'd into a sty
And laid me down among the swine.[5]

この詩に於ける 'serpent' は教会の聖職者を象徴していることは明らかである．そして，'golden hinges' とか 'altar white' が何を暗示しているかは明瞭である．'The Sick Rose' に於ける 'worm' は，この詩に於ける 'serpent' と同じような象徴的意味を持っているように思われる．'worm' の 'dark secret love' は，蔭でひそかに肉欲を貪る聖職者の不健全な愛を意味するのであろう．そういう愛が本来 'crimson joy' であるべき肉欲を病めるものにするのである．愛と生命力を蝕ばむ戒律の支配する闇の世界に於ては，バラは病まざるを得ないのである．

しかし，Blake は 'The Tyger' に於て，虚偽と偽善にみちた戒律に反逆する人間の生命力（Energy）を美事に象徴化している．

Tyger, Tyger, burning bright
In the forests of the night,
・・・

Blake は 'Proverfs of Hell' の中で，'The tygers of wrath are wiser than the horses of instruction, ' と言っている．'horses of instruction' とは明らかに道徳律に盲従する者のことであり，'tygers of wrath' とは道徳律や戒律に反逆する生命力に溢れた者であろう．

Blake は *The Marriage Of Heaven And Hell* に於いて，理性と精力，或は精神と肉体とを峻別し，前者を善であり後者を悪であるとする謂わゆる 'dualism' を攻撃し，'Man has no Body distinct from his Soul' とか，'Energy is the only life and is from the Body'とか，又，'Energy is Eternal Delight' と主張している．'The Tyger' に於ける「夜の森」に輝き燃える虎は，既成宗教の教義によって 'Evil' と見做されている 'Energy' を象徴しているのであろう．そして，「夜の森」は生命の木ではなく知識の木が生い茂る森である．Blake は葉の茂った木と葉のない枯木とによって，各々生命の木と知識の木を象徴したが，この詩の挿し絵には葉の落ちた枯木が描かれている．

かくて，虚偽と偽善にみちた戒律の支配する闇の世界では，*Songs of Innocence* に於いて柔和の象徴であった「仔羊」は憤怒の「虎」とならざるを得ない．しかし，作者は 'Did he who made the Lamb make thee ?' と問わざるを得ない．無論，この問いは答えられてはいない．作者は再び 'What immortal hand or eye / Dare frame thy fearful symmetry ?' と繰り返してこの詩を結んでいる．唯，最初の節の 'Could' が 'Dare' に変わっているが．これは神の創造の業に対する一層の驚嘆を示すものであろう．しかし，*Songs of Experience* に於ける夜の闇の世界には，'The Little Boy found' に於けるように神が姿を現わすこともなく，又，'Night' に於けるように天使が現われ，猛り立つ猛獣の魂を和らげることもない．

以上 *Songs of Innocence* と *Songs of Experience* の中の数篇の詩を中心に，前者から後者にかけて夜の世界がどのように展開され，又，各々の詩のコンテクストに於いて，どのような象徴的な意味を持っているかを考察した．しかし，より広い意味では，夜の闇の世界は，Blake の生い立った時代の精神風土，即ち Imagination が軽視され，Reason が宗教・道徳・思想・芸術等文化の諸方面に於いて重視された時代の精神風土を象徴しているといえよう．18世紀は「啓蒙の時代」とも言われる．「啓蒙」(Enlightenment) とは Reason の光によって暗きを照らすと云う意味であろう．18世紀には Reason を光と信ずる一群の思想家達がいたが，Blake にとっては Reason は光ではなく，Reason の支配する世

界であった.が,同時に夜の世界は Blake の 'dark night of the soul' でもあつた筈である.

註

① Matthew 18 : 3.

② 11・85-90.

③ *Max plowman* (*ed*) , *The Poems and Prophecies of William Blake*, (London, 1927) P・323.

④ *Ibid*・, P・383.

⑤ *Ibid*・, P・374.